

令和6年度第3回環境セミナー

自然再生により、 カーボンニュートラルの実現を！

吉田太郎氏は著書「土が変わるとお腹も変わるー土壤微生物と有機農業」の中で、カーบอนを切り口に、食べ物、気候変動、菌根菌には、深い結びつきがあるため、土壌カーボン・スポンジで地球を冷やす気候変動対策が必要だと述べておられます。第2部では、第1部の提言をもとに二人の有機農業実践家を交えて、カーボンニュートラルの実現には、自然を回復することが、市民の誰でもできるかつ最も効果的な方法であるということを一明らかにしていきます。

○日 時：令和7年2月11日（火・祝）
13：30～15：30（受付開始13：00～）

○場 所：へきしんギャラクシープラザ 3階大会議室
（安城市文化センター）

○定 員：100名

○対 象：18歳以上

○参加費：無料



吉田太郎氏

〈第1部 提言〉
13：45～14：15
講師：吉田太郎氏

〈第2部 パネルディスカッション〉
14：20～15：20
コーディネーター：箕浦希奈氏
パネリスト：吉田太郎氏、松澤政満氏、野中慎吾氏

○申 込：1月7日（火）より先着順
柿田公園管理事務所「エコきち」へ
電話（0566-98-3784）＊月曜日以外の9時～17時まで
または右下のQRコードからお申し込みください。

主 催：安城市

企画運営：柿田公園管理事務所「エコきち」

指定管理者エリアワン・エコネットあんじょうグループ

協 力：認定特定非営利活動法人地球温暖化対策地域協議会
エコネットあんじょう



～ パネルディスカッション ～

脱炭素社会の実現には、工業的に解決する方法もあるが、人間によって破壊された自然を再生する方法が、誰でも取り組める方法として注目されている。

そこで令和6年度第3回環境セミナーでは、第1部で有機栽培の実例を紹介し、第2部で自然再生の取り組みが二酸化炭素削減にどのように有効であるかを明らかにしながら、カーボンニュートラル達成への道筋を探る。

出演者プロフィール

コーディネーター



箕浦希奈氏

パネリスト



吉田太郎氏



松澤政満氏



野中慎吾氏

愛知県立大卒。一般社団法人BUN-KAI代表。

ドイツに3年半滞在し、環境事情に触れる。大府市で竹やぶ整備・炭焼きを実践中。東海ラジオ、NHKテレビ、中日新聞に活動が紹介されている。

筑波大学卒。日本有機農業研究会理事、機関誌「土と健康」編集委員長、長野県農業大学元教授、元長野県有機推進担当。

主な著書は、「土が変わるとお腹も変わるー土壤微生物と有機農業」、「200万都市が有機野菜で自給できるわけ」、「タネと内臓ー有機野菜と腸内細菌が日本を変える」、「コロナ後の食と農ー腸活・菜園・有機給食」など多数。

最新刊は、「シン・オーガニックー土壤・微生物・タネのつながりをとりもどす」。

静岡大学農学部卒。愛知県新城市の福津農園で不耕起直播き草生栽培を実践。畑は耕さない、化学肥料はやらない、農薬は撒かない、畑は多品目少量生産。多くの品種と草があることで生態系のバランスを取り、病害虫対策になる。これからは持続可能で健康幸福な農業に取り組まなくてはならない。そのためには生態系豊かな、生物と協働する農業をやる必要があると説く。平成22年に農林水産大臣賞、令和3年に中日農業賞特別賞を受賞。

岐阜県七宗町生まれ。名古屋学院大学外国語学部卒。オイスカ開発教育専門学校の時フィリピンのミンダナオ島で海外研修。その後、豊田市勘八町にあるオイスカ中部日本研修センターに就職。豊田市のスーパー「やまのぶ」山中会長と、農業生産法人みどりの里を立ち上げ、自然栽培米、イチゴの無農薬栽培に成功。福祉施設「無門福祉会」と農福連携を実現している。